

製品名: カルモジュリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07860**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	CALM1
別名	CALM1; CALM; CAM; CAM1; CALM2; CAM2; CAMB; CALM3; CALML2; CAM3; CAMC; CAMIII; Calmodulin; CaM
遺伝子 ID	801/805/808
SwissProt ID	P62158
免疫原	抗血清はヒトカルモジュリン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 46-95

背景

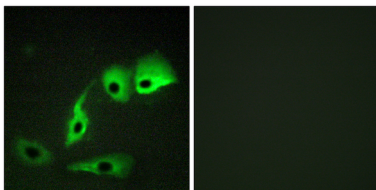
この遺伝子は、EF ハンドカルシウム結合タンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。これは、ホスホリラーゼキナーゼの

4つのサブユニットの1つである同一のカルシウム結合タンパク質をコードする3つの遺伝子のうちの1つです。2つの疑似遺伝子が7番染色体とX染色体上に同定されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009年10月]機能: カルモジュリンは、Ca(2+)による多数の酵素およびその他のタンパク質の制御を媒介します。カルモジュリン-Ca(2+)複合体によって刺激される酵素には、多くのタンパク質キナーゼとホスファターゼが含まれます。CEP110 およびセントリンとともに、中心体周期および細胞質分裂の進行を制御する遺伝的経路に関与する。、その他: このタンパク質は4つの機能的なカルシウム結合部位を有する。、PTM: リン酸化は活性を低下させる。、PTM: ユビキチン化は活性を著しく低下させる。、類似性: カルモジュリンファミリーに属する。、類似性: 4つのEFハンドドメインを含む。、細胞内局在: 間期には細胞全体に分布するが、有糸分裂時には紡錘体極および紡錘体微小管に著しく局在する。、サブユニット: MYO1Cと相互作用する(類似性による)。CEP97、CEP110、TTN/タイチン、SRYと相互作用する。、

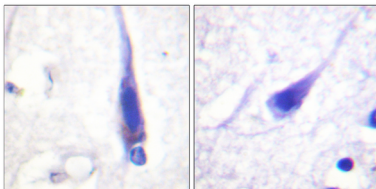
研究分野

カルシウム、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系、卵母細胞減数分裂、血管平滑筋収縮、長期増強、神経栄養因子、嗅覚伝達、インスリン受容体、GnRH、メラニン形成、アルツハイマー病、神経膠腫、

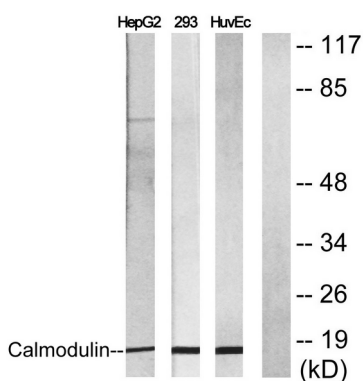
画像データ



カルモジュリン抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。

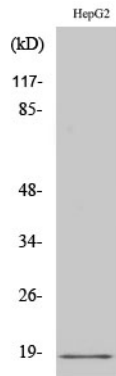
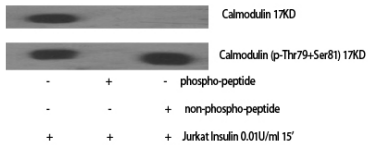


カルモジュリン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。

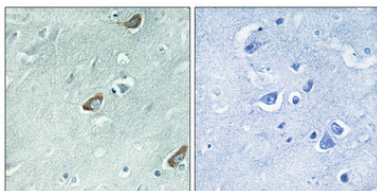


NIH/3T3 細胞ライセートのカルモジュリン抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロックされている。

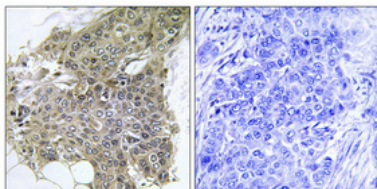
1: 2000 希釈のカルモジュリンポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 2000 希釈のカルモジュリンポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。